

氏 名：吉野 純子  
学 位 の 種 類：博士（看護学）  
学 位 記 番 号：甲第 129 号  
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 麻原きよみ（聖路加国際大学教授）  
副査 亀井 智子（聖路加国際大学教授）  
副査 伊藤 和弘（聖路加国際大学教授）  
副査 廣瀬 清人（聖路加国際大学教授）

論 文 題 目：定年退職した男性が地域とのつながりを構築していく理論の生成

### 博士論文審査結果

本研究は、定年退職した男性が、退職後に地域との関わりをどのように築いていくのかを記述し、理論を生成することを目的に行った。首都圏に在住する 15 名の定年退職した男性を研究協力者として、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて、半構成的インタビューを行い分析した。その結果、定年退職した男性が地域とのつながりを構築していくとは、退職により「自己の存在価値を模索する」中で、趣味などの関心事を通して「個人として在る」状態を作る一方で、地域での活動を通して「地域の中で共有できる視点を持つ」という「地域と共に在る」状態へ変化していくプロセスであった。

審査では主に以下について議論され、修正が求められた。

- ・本研究結果を統合し、最終的な結果として示された「首都圏在住の定年退職した男性が地域とのつながりを構築していくプロセス」の図が何を表現しているかがわかりにくい。本研究の主要カテゴリーやカテゴリー間（関係性）に見られる本研究結果の理論の主題となる意味を見出すための分析が必要であり、それに基づき、本文や図、論文題目などを修正する必要がある。
- ・考察がわかりにくく、本研究結果に基づいた記述になっていない。研究結果を生かし、かつ文献で深めた考察にする必要がある。また、本研究が理論基盤としているシンボリック相互作用論から、人間の主体性、あるいは人格形成の観点から論じる必要がある。看護への示唆については、都市部の地域看護活動として具体的な提言が必要である。
- ・用語やその表現、数字の基準など注意を払って記述し、わかりやすい文章表現や図表を工夫すること。

以上の指摘に関しては、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認が得られた。

超高齢社会にむけて、定年退職した男性への対応は重要課題であり、特に、本研究が地域との接点が希薄な都市部の中高齢者男性に焦点を当て、当事者の視点から地域とつながるプロセスを記述したことについて評価された。本研究結果は、地域看護実践への具体的な示唆を与えることができると期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。